

名前：

点数： /16点

日付：

見つける → 指さす → 言いかえる → つなぐ → 書く — 手順は基礎編と同じ。素材の密度だけが上がる。

この一枚の技 全文要約は**段落の役割ラベル**（打ち消し→定義→原因→結論）を貼ってから、各段落の核を一つずつ回収する。基礎編の「けずる順番」（No.022）を、逆向きに使う：**残すものを先に決める**。

質問は、無知の告白ではない。よい質問とは、相手の話のどこまでを理解し、どこから先が分からないのかを言葉にする作業であり、それ自体がすでに理解の一部である。質問できないのは、恥ずかしいからというより、自分の分からなさの輪郭をつかめていないからだ。だから、質問の練習とは度胸の練習ではなく、自分の理解を点検する練習なのである。

問1 本文の内容を、120字以内で要約せよ。

16点／目標16分

設計のヒント：四つの核：①打ち消し（無知の告白ではない）②定義（理解と不明の境目の言語化＝理解の一部）③原因（輪郭をつかめない）④結論（理解を点検する練習）。「～ではなく」の型を二回使うと収まる。

制作：日本国語塾TOP（数強塾グループ／代表 藤原進之介） 制作担当：中村祥・山下翔平 ※「しょうちゃん式」は二人の“しょう”にちなんだ名前です
本紙の文章・設問・模範解答・解説はすべて書き下ろしのオリジナルです。実在の入試問題の転載・改変ではありません。個人学習および学校・塾での授業利用（受講者への印刷配布を含む）可。データの再配布・改変・販売・転載は禁止。© 2026 数強塾グループ 日本国語塾TOP

問1 模範解答（115字前後）

質問は無知の告白ではなく、どこまで理解しどこから分からないかを言葉にする、理解の一部である。質問できないのは、恥ずかしさよりも自分の分からなさの輪郭をつかめていないためであり、質問の練習とは度胸ではなく自分の理解を点検する練習である。

要素	採点基準	配点
打ち消し	無知の告白ではない	3点
定義	理解と不明の境目を言葉にする＝理解の一部	5点
原因	分からなさの輪郭をつかめていないから	4点
結論	度胸ではなく、理解を点検する練習	4点

添削ワンポイント（よくある失点）
要約で最も落ちるのは②の定義。「よい質問をすることが大切だ」型の回答は、本文が定義し直した中身（境目の言語化）を失い、最大配点を落とす。段落ラベル（No.019・020）→残す核を四つ決める→つなぐ、の順番を崩さないこと。

自分の答案が何点か知りたい方は、答案の写真を日本国語塾TOPまでお送りください。要素ごとに採点し、失点の原因を手順のことばで診断してお返しします。（無料相談：nihonkokugojuku.com ※URLは公開時に確定）